三

勅授

立案	昭和	年	月	日
決裁	昭和	年	月	日

宗秩寮總裁

爵位課長

故從四位加賀山學位階追陞の件

昭和三年九月二十一日裁可

官報記入 十月一日

九月十五日

辞令九月二十二日

宮内省

三

故從四位加賀山學位階追陞の件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十一年九月二十六日

内閣總理大臣 吉田茂

宮内省

運人位

第二六二號

起案 昭和三十一年九月二十六日

裁可 昭和卅一年九月廿六日

決定 昭和　年　月　日

施行 昭和　年　月　日

內閣總理大臣 了

內閣書記官長

內閣事務官

故従四位加賀山學は別紙運輸大臣稟請のとほり功績顯著な者であつたが本月十五日死去したので特旨を以て左のとほり位階追陞の件を

上奏してよいと思ふ

人試第一九四八號

昭和二十一年九月二十三日

運輸大臣　平塚常次郎

内閣總理大臣　吉田茂殿

請議

故　從四位　加賀山學

右は別紙調書のとほりその功績洵に顯著なものでありましたが病氣のため九月十五日死去致しましたので同人生前の功績に鑑み特

運輸省

元鉄道技師（十）退官
陞持ノ叙位ナカリシモノ

故從四位加賀山學

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

從四位　加賀山學

敍正四位

九月十五日付

します

功績調書

故 従四位 加賀山 學

右は明治三十八年七月鐵道技師拜命以來、門司保線事務所長、神戸鐵道局工務課長、國府津改良事務所長、工務局改良課長、兼任商工技師、鐵道省工務局長を歴任し、昭和八年十二月十三日本官を免せらるるまで、官務を奉ずること二十有八年に及び、その間東京帝國大學の航空學實施に關する業務の囑託あり、又都市鐵道工事並に鐵道と港灣連絡に關する事項調査のため歐米各國へ出張中にはロンドンに於ける第十回万國鐵道會議には委員として參列

委員、鐵道會議臨時委員、都市計畫中央委員會臨時委員となりたるの外、鐵道部内に在りては克く精勵、業務の刷新向上に參畫しその任務の達成に貢獻したる功績大なるものがあります。

又昭和四年在官の儘中華民國政府の招聘に應じては本邦鐵道事業の權威者として該博な學識と豐富な經驗により日支運輸連絡業務の圓滑發展に竭すところ大いなるものあり、昭和八年退官後は鐵道省事務囑託として大東亞戰爭勃發まで中華民國上海に出張、中支那方面に活躍、常に斯界の擁護の任に當りその圓滑進展に努力專念し、大陸に於いて克く國鐵の眞價威力を發揮せしめたその輸

なほ同人は昭和八年十二月退官に際し特旨叙位の恩典に浴すること
となく今日に至りましたものでありましたが去る九月十五日死去
致しましたに付きましては特にその位一級追陞の榮に浴せしめら
れたいと存じます。

履歷明細紙（甲）

氏名	加賀山 學
生年月日	明治一四年九月二日
本籍	福井縣大野郡大野町字水落一六番地

學歷及資格

年	月	日	學歷及資格
明治三八	七		東京帝國大學工科大學土木工學科卒業

經歷事項

年	月	日	經歷事項	廳名
明治三八	七	二九	五級技師　月俸五十圓	山陽鐵道株式會社
		〃	建築課勤務	〃
三九	一〇	一	三級技師　月俸七十一圓	〃
	十二	一六	月俸七十九圓	〃
	十二	一	雇ヲ命ス　月給金六十九圓ヲ給ス	鐵道作業局

年	月	日	經歷事項	廳名
		〃	任帝國鐵道廳技手	
		〃	給一級俸	
		〃	岡山建設事務所勤務ヲ命ス	遞信省
四一	一二	五	官制改正　鐵道院技手　一級俸	
			勤務從前通リ	
四三	七	十二	任鐵道院技師	
		〃	敍高等官七等	內閣
		〃	九級俸下賜	〃
		〃	富山建設事務所勤務ヲ命ス	鐵道院
	一〇	二〇	敍從七位	宮內省
四四	四	一	俸給令改正　九級俸	
	四	五	鹿児島建設事務所勤務ヲ命ス	鐵道院
四四	七	一七	八級俸下賜	內閣
大正元	十二	二五	陞敍高等官六等	
		〃	七級俸下賜	〃

運輸通信省

年	月	日	事項	官廳
大正二	二	二〇	敍正七位	宮内省
三	七	三	六級俸下賜	内閣
	一〇	二七	九州鐵道管理局勤務ヲ命ス	鐵道院
		〃	技術課勤務ヲ命ス	九管局
	十二	十一	監督局兼務ヲ命ス	鐵道院
四	六	二三	官制改正 九州鐵道管理局工務課兼	
			監督局監理課勤務	
	十二	一〇	大禮記念章授與	賞勳局
五	六	二三	陞敍高等官五等	
		〃	五級俸下賜	内閣
	七	一〇	敍從六位	宮内省
	九	一	工務課保線掛勤務ヲ命ス	九管局
六	三	二四	業務監査員ニ指定	
	九	二一	九州鐵道管理局門司保線事務所長	
			ヲ命ス	鐵道院

年	月	日	事項	官廳
大正七	十二	二六	陞敍高等官四等	
		〃	三級俸下賜	内閣
八	一	三〇	敍正六位	宮内省
	五	一	官制改正 門司鐵道管理局門司保線	
			事務所長	
九	一	二六	門司鐵道管理局勤務ヲ命ス	鐵道院
		〃	工務課改良掛長ヲ命ス	門管局
	二	二六	監督局兼務ヲ命ス	鐵道院
	五	二五	官制改正 鐵道局技師 四等三級	
		〃	門司鐵道局工務課改良掛長	
	七	一	二級俸下賜	鐵道省
九	八	一八	俸給令改正 年俸四千七十圓	
			（八月分ヨリ支給）	
	十一	一	敍勳六等授瑞寶章 大正四年乃至九年事件ノ功ニヨル	賞勳局
一〇	七	五	二級俸下賜	鐵道省

年	月	日	事項	官廳
	七	一	陞敍高等官三等	内閣
	七	三	一級俸下賜	鐵道省
	七	三一	敍從五位	宮内省
十二	三	六	神戸鐵道局工務課長ヲ命ス	鐵道省
	四	一三	航空學實施ニ關スル業務ヲ囑託ス	東京帝大
	九	一	臨時文官普通懲戒委員ヲ命ス	神鐵局
		〃	臨時普通試驗委員ヲ命ス	〃
	十一	三	任鐵道技師	
		〃	敍高等官三等	内閣
		〃	一級俸下賜	
		〃	工務局改良課勤務ヲ命ス	鐵道省
		〃	臨時普通試驗委員ヲ免ス	神鐵局
		〃	臨時文官普通懲戒委員ヲ免ス	〃
	十二	一	工務局國府津派出所長ヲ命ス	鐵道省
一三	四	一	國府津改良事務所長ヲ命ス	〃

年	月	日	事項	官廳
			員會委員ヲ命ス	鐵道省
	八	二六	歐米各國へ出張ヲ命ス	〃
		〃	歐米各國出張中左記事項ヲ調査ス	
			ベシ	
		〃	一、都市鐵道工事ニ關スル事項	
			二、鐵道ト港灣連絡ニ關スル事項	
		〃	工務局勤務ヲ命ス	〃
	九	二	臨時線管拂出納官吏ヲ命ス	〃
	九	三	出發	
	十一	二八	敍勳五等授瑞寶章	賞勳局
一四	四	八	倫敦ニ於テ第十回萬國鐵道會議開	
			催ニ付委員トシテ參列被仰付	内閣
	八	三一	歸朝	
	九	三	工務局改良課長ヲ命ス	鐵道省
	一〇	八	東海道線其他輸送力調査委員會委	

履歴用紙（乙）

年	月	日	事項	官廳
			員ヲ命ス	鐵道省
大正十四	十二	八	兼任商工技師	
		〃	敍高等官三等（兼官）	内閣
		〃	商務局勤務ヲ命ス	商工省
		〃	商政課勤務ヲ命ス	商務局
十五	九	一六	陞敍高等官二等	内閣
		〃	賜四級俸	鐵道省
	一〇	一	敍正五位	宮内省
	一〇	二	大臣官房研究所兼務ヲ命ス	鐵道省
	一〇	九	敍勳四等授瑞寶章	賞勳局
昭和二	三	一九	任鐵道省工務局長	
		〃	敍高等官二等	内閣
	四	一	災害豫防調査委員ヲ命ス	鐵道省
	四	十二	工業品規格統一調査委員被仰付	内閣
	四	一五	特別都市計畫委員會臨時委員被仰付	〃

年	月	日	事項	官廳
	四	二一	鐵道省所管事務政府委員被仰付	〃
	五	七	鐵道省所管事務政府委員被免	〃
	六	九	大禮委員會委員ヲ命ス	鐵道省
	七	二一	大禮使典儀官被仰付	内閣
	一〇	二九	大禮行幸供奉被仰付	〃
	十二	二四	鐵道省所管事務政府委員被仰付	〃
	十二	二八	金杯一個ヲ賜フ　大禮功勞ノタメ	賞勳局
四	一	二五	大禮使官制廢止	
		〃	大禮委員會廢止	
	三	二六	鐵道省所管事務政府委員被免	内閣
	七	五	支那へ出張ヲ命ス	鐵道省
	七	九	出發	
	八	十二	歸朝	
	八	二七	支那へ出張ヲ命ス	〃
	八	二八	在官ノ儘支那政府ノ招聘ニ應シ奉	

鐵道省

年	月	日	事項	官廳
昭和二	五	一七	文官普通懲戒委員ヲ命ス	鐵道省
		〃	鐵道部内職員表彰審査會委員ヲ命ス	〃
	五	三〇	國有鐵道共濟組合~~会~~審査會審査委	
			員ヲ命ス	〃
	六	三	鐵道會議臨時議員被仰付	内閣
	六	四	財團法人鐵道育英會評議員ヲ命ス	鐵道省
	七	六	都市計畫中央委員會臨時委員被仰	
			付	内閣
	七	二三	東京附近改良計畫調査委員會委員	
			ヲ命ス	鐵道省
	七	三一	建設規程改正委員會委員ヲ命ス	〃
	九	一三	東海道線其他輸送力調査委員會廢止	
	一〇	四	滿二十二年以上勤續シ操行成績拔	
			群ニシテ一般職員ノ模範ト爲スニ	
			足ル仍鐵道部内職員表彰規定ニ據	
			リ效績章ヲ授與シ之ヲ表彰ス	鐵道大臣

年	月	日	事項	官廳
	九	七	支那政府傭聘契約調印傭聘期間昭	
			和四年九月七日ヨリ昭和五年九月	
			六日迄一ケ年トス	
		〃	普通試驗委員ヲ免ス	鐵道省
		〃	文官普通懲戒委員ヲ免ス	〃
		〃	鐵道部内職員表彰審査員ヲ免ス	〃
		〃	鐵道省事務ヲ囑託ス	〃
		〃	年手當五千圓ヲ給ス	〃
		〃	陸軍省事務ヲ囑託ス	陸軍省
	九	二七	工業品規格統一調査會委員被免	内閣
	九	三〇	陞敍高等官一等	〃
	一〇	三	特別都市計畫委員會臨時委員被免	〃
	一〇	十二	都市計畫中央委員會臨時委員被免	〃
	一〇	二五	敍從四位	宮内省
	一〇	二六	財團法人鐵道育英會評議員ヲ免ス	鐵道省

履歴明細書（乙）　鐵道省

年	月	日	事項	官廳
四	一〇	三一	・鐵道會議臨時議員被免	内閣
	十二	二五	敍勲三等授瑞寶章	賞勲局
五	九	七	・昭和五年九月七日ヨリ昭和六年九	
			月六日迄一年間契約繼續	
六	九	七	・昭和六年九月七日ヨリ昭和八年九月六日	
			月六日迄二年間契約繼續	
七	三	一九	年俸六百圓加賜	鐵道省
五	十二	五	・帝都復興記念章授與	賞勲局
六	九	六	年手當五千八百八十二圓ヲ給ス	鐵道省
八	九	七	・契約繼續	
	十二	二一	契約解除　敍官	
〃			任鐵道技師	
〃			敍高等官一等	内閣
〃			賜一級俸	
〃			工務局勤務ヲ命ス	鐵道省

年	月	日	事項	官廳
八	十二	二一	・陸軍省事務囑託ヲ解ク	陸
		〃	・囑託ヲ解ク	鐵
	十一	三〇	歸朝	
	十三	三	・依願免本官　一身上ノ都合	内
九	六	二三	・普通恩給年額金二、三二八圓ヲ給ス	恩給局
			・イ第六六一四四號	
十三	一〇	二五	鐵道省ノ事務ヲ囑託ス	
		〃	年手當五千圓ヲ給ス	鐵道省
	一〇	二九	・中華民國ヘ出張ヲ命ス	〃
	一〇	三〇	出發	
十三	一	二三	・中支那方面軍司令部ニ於ケル鐵道	
			業務ヲ囑託ス　無給	陸軍省
	二	八	・編成改正　中支那派遣軍ニ於ケル鐵	
			道・業務囑託トナル	
十五	四	二九	敍勲二等授旭日重光章	賞勲局

内發第八七六六號

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

昭和二十一年九月二十六日

故從四位加賀山學

敍正四位

昭和二十一年九月十五日

從四位加賀山學

右之通　宣下相成候條此旨及傳達候位記並辭令ハ追テ可及回送候也

昭和二十一年十月十日

宗秩寮總裁子爵　武者小路公共

運輸大臣平塚常次郎殿

宮内省

一四

立案 昭和 年 月 日

決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

地方教官齋藤淳一郎外一名敍位の件

昭和二十年九月十四日裁可 九月十六日達

臺帳記入一〇月三日官報報告済

宮内省